

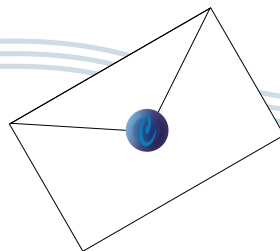


領域代表からのご挨拶

領域課題名	競合的コミュニケーションから迫る多細胞生命システムの自律性
略称	多細胞生命自律性 Multicellular Autonomy
領域代表	井垣 達吏 (京都大学 生命科学研究所)

まだまだ寒い日が続きますが、お元気でお過ごしでしょうか?年が明けると今年一年の新たな研究展開をあれこれ夢想して、いつもワクワクします。と同時に、残りの研究時間がまた一年減ってしまったと少し緊張するようになってきました。今から7年ほど前、私の師匠であり本領域のアドバイザーでもある三浦正幸先生に「グンキ (私のあだ名です)、今は自分は永遠に研究できているだろうけど、10年切ったら焦るよ」と言われました。65歳の定年まで残り10年を切ると、もうやれない研究が出てくるとのこと。確かに。そのとき45歳だった私は心の中で、「自分は15年を切るまでにやりたいことを全部決めよう」と密かに誓いました。それから5年をかけて、自分の研究人生でやり遂げたいことをじっくりと考えました。そして、残り15年となる50歳の誕生日を平静な気持ちで迎えることができました。自分なりに考え抜けたからです。今は、残り10年のカウントダウンが始まる前の軽快な助走中です。そう考えると余裕をもってとても気持ちよく研究に没頭できます。会議中にもついつい新しい実験を考えながら予想される免疫染色像を頭に浮かべてしまい、議長の話す内容が私の頭から次々と **apical extrusion** していきます (いや... ウソです)。とにかく人生あつという間。今日も一日ラボメンバーたちと研究できる幸せを噛み締めながら、研究も雑用も全力でがんばります。

さて、昨年12月には無事金沢で第2回領域会議を開催することができ、公募班の皆さまも加わった領域全体で存分に交流ができたことを大変嬉しく思っております。どの発表もとてもエキサイティングで、10分間の質疑応答時間が全く足りないくらいに議論が白熱しました。若手の質問の圧倒的な多さはこのコミュニティの特徴でもあり、それこそが本領域の将来性を証明していると思います。ここからどんな新しいことが出てくるのか、本当に楽しみです。



2023年2月27日

領域代表
井垣 達吏